

2007年6月号

- 本号の表紙の劔岳ですが、『劔岳・点の記』という新田次郎著の作品があります。測量にまつわる小説として有名です。これの映画化が進んでいるそうです。すでに撮影は進んでおり来年の秋公開予定と北陸地方測量部の方に聞きました。監督は「八甲田山」「鉄道員（ぽっぽや）」などの撮影監督を務めた木村大作氏（67）。私も20年くらい昔に読み、測量という仕事の中で国家基準点選点の大変さを知りました。ところで、新田次郎氏は、今書店で売られている『国家の品格』という本を書かれた藤原正彦氏の父君。気象庁の技官で、富士山頂レーダードーム建設のNHK「プロジェクトX」にも担当課長として顔がみえました。『流れる星はいきている』の藤原てい氏が奥さんです。いい映画になることを祈りたいものです。
「タモリ倶楽部」で測量話題第2弾を6月15日放送予定。

2007年8月号

- 6月号のこの欄で紹介しました「劔岳〈点の記〉」の映画制作が、いよいよ本格化しています。役者さんが決定です（P55ご覧下さい）。皆さんかなり評判の高い人たちです。文春文庫版の新田次郎氏「あとがき」には、当協会を設立した人たちの中のひとり園部薔氏が、陸地測量部時代に宿直の当番を何回も柴崎氏と同じ日に替えてもらって、気心を通じて無口な柴崎氏から劔岳登頂の話を聞かせてもらったとあります。この映画がヒットして、世間の認知度が高いとはいえない「測量」の仕事についてあらためて関心を深めてもらえたらいいのではと思います。測量・地図界をあげて応援したいものです。

2007年10月号

- 現代では、パソコンをクリックすれば情報は苦勞せず手に入る。食べ物もコンビニで気軽に手に入れることができる。位置情報もケイタイのナビ情報であつという間に分かる。感動を置き忘れた時代である。だからこそ、マラソンの土佐礼子が血を吐くような努力で手に入れたメダル姿には感動を覚えるのかも知れない。
「劔岳 点の記」は、地図という位置情報を求める積み重ねには、かくも苦闘の歴史があったことを映画の観客に知らせずにはおかないだろう。この時代の観客は、得られない〈感動〉を渴望しているのかも知れない。

2007年11月号

- 「地図展2007 富山」に行ってきました。展示の充実には目を見張りました。なにしろ柴崎さんが作った本物の「点の記」、観測で使用した「測量機」、頂上にあつた「錫杖と劔のサンプル」などまで展示してありました。地元のテレビ各局は「劔岳・柴崎測量官」の話題とあつて、こぞってニュースで取り上げていました。「劔岳測量100年について」という山田明氏（元北陸地方測量部長）の講演には、地元の熱心な『劔岳・点の記』ファン・山登り愛好家で会場は満席。いちいちうなずいている聴衆も見えました。富山の人にとって「劔岳」は特別の山なのだなあと、こちらまで伝わりました。なにしろ駅のコンビニにまで、あの文庫『劔岳・点の記』が平積みでした（普通、駅にある文庫はサスペンスか通俗小説が多い）。

2008年1月号

- 進路に悩んでいる若者が映画「劔岳 点の記」をみて、チラッと「オレも親父の測量の仕事をやってみるのも手かなあ」と進路の選択肢に入れたり、小学生の娘が「パパは測量の仕事をしています。私の誇りです」と作文に書いてくれる。そんなのを期待するのが私の今年の初夢でしょうか。

東映はこの映画の観客百万人を目標にしているそうです。測量・地図界こぞって見に行つて何万人になるのでしょうか？ しかし、測量とこれまで縁もゆかりもない人たちが、あれだけ（P56）熱く思い入れして測量・地図界の映画を作ってくれています。何とかチカラになりたいと思うのが人情でしょう。木村監督に声援をお寄せ下さい。月刊『測量』編集係は、一つ残らず監督にお伝えします。

2008年2月号

- というわけで「劔岳 点の記」話題ですが、東映のホームページのトップページに「公開予定作品一覧」という項目があります。

ここをクリックして入っていきますと「劔岳 点の記」の予告編を見ることができます。(http://www.tsurugidake.jp/) この「特報」というところをクリックしてみてください。浅野忠信さん、香川照之さんが出演している映画の一コマが出てきます。音量を最大限にして視聴していただくと効果音もあり、なかなかいいです。

さらに「リンク先」を見ていただき、当協会が明記されているところを見ていただければ幸いです。

2008年5月号

- 3月号に載った映画「劔岳 点の記」の「木村大作監督を囲む会」の記事中に（詳細は次号予定）と記しました。しかし、4月号には詳細を載せられませんでした。何人かの人から「載っていない」と言われましたが、実は内容があまりに刺激的で書くのをためられました。それと、書いてもあの1時間半も持続している迫力を伝えるのはちょっと難しいと思いました。近いうちに会員の皆さんに収録DVDを見てもらう機会があるといいのですが。

しかしこの映画は、木村監督のあの迫力がないと最後まで録り切れないんじゃないかとつくづく思いました。

2008年6月号

- yahooで「劔岳 点の記」で検索しますと、当協会の総務部が運営している「劔岳 点の記コーナー」がトップにヒットしてきました(5月17日現在)。1年前でこれですから今後が楽しみです。●「ミセス」という女性誌の6月号に、藤原正彦先生(新田次郎氏のご次男)の奥様の映画に関する記事を見つけまして、当協会の「コーナー」に転載させてほしいとお願いしました。そうしましたらなんと『ミセス』編集部も藤原美子先生も快く許可していただきました。また本号には、講談社の編集部のご厚意で劔岳の記事を転載許可をいただきました。若者風に言いますと「ありえねえ」話です。映画というひとつの「文化・芸術」に対する、立場・職業・年齢その他諸々を超えた「協力したい」という気持ちはすごいものがあると感じました。

2008年7月号

- 「バシフィコ横浜」で開かれた、測量関係の全国イベントである「地理空間情報フォーラム2008」用に、東映さんが特別に作ってくれた「劔岳 点の記」のメイキングビデオを見ました。山岳パノラマ映像がものすごい迫力でした。それから柴崎芳太郎が陸地測量部に出頭して、上官(国村隼)に劔に登る必要があるんだと言われるシーン。そして立山に基準点を設置した陸地測量部の先輩である古田盛作(役所広司)にアドバイスを受けるシーン。妻・葉津よ(宮崎あおい)との夫婦のこころ暖まるシーンを見ました!!! ちょっとだけでしたが、これだけでも期待感が募ります。

2008年8月号

- 6月の「地理空間情報フォーラム2008」では、「劔岳 点の記ブース」が設けられ、東映さん提供の最新メイキング映像が好評でした。この時これまでの月刊「測量」の「劔岳」関連記事の抜き刷りを作って配布しました。いくつかの大学の土木工学科や、環境システム工学科の教授から、全学科生に読ませたいので、大量に送ってくれとの要望がありましたが、部数が足りないので次に作るまでお待ちいただいております。7月末に開かれる東日本高等学校土木教育研究会で、工業高校の先生方にこの映画の事をぜひ紹介したいと有志の先生から連絡をいただきましたので、お願いしました。あちこちに波紋が広がっているようです。

2008年9月号

- 映画「劔岳 点の記」の撮影中、落石事故に遭い重傷を負った録音技師齊藤禎一さんは、事故後病院に搬送され手術を受けたそうです。手術は成功し意識が回復して、駆けつけた家族らと話せるまでになったとの事です。クランクアップの前に見舞いに行った木村監督の話によりますと、齊藤さんはベッドから起き上がって話をしてくれたらというおられたので、まずは安心です。一時はどうなるか本当に心配しましたが、いい方向に向かっているようで何よりです。この事故で、今までねんどの事故ひとつなかった撮影隊に緊張感が走ったそうです。

2008年10月号

- 本号の「読者の広場」には、中央工学校の原田先生に高校土木教育の現状について、貴重な報告をいただきありがとうございました。もう1本、大西様には映画についてのご意見をいただきました。「一般社会への広報」の必要性を述べていただきました。「まずは測量を知ってもらい、国民に理解され、一般社会の支持と共感を得る」ことが求められているとのご発言には大いに納得させられるものがありました。

2008年11月号

- 9月21日(日)のTBS系番組「情熱大陸」に木村大作監督(映画「劔岳 点の記」の監督)が出演されていた。監督のこの映画にける情熱が紹介されていた。個人的に再確認したのは、「やはりこの映画はこの監督でしか撮れないものだった」のではないかとということ。映画界におけるカメラマンとしての長い経験も、過激な性格もすべて意味の有る条件だったのだろう。今、編集の最終段階にあるという。東映の関係者が漏らした言葉は「この映画はものすごいものになりますよ」。想像を超えるものだったらいい。いい作品でも人が入らないと伝わらない。あと8カ月。測量・地図の関係者はさらに応援に力を入れましょう。

2008年12月号

- 映画「劔岳 点の記」は〈測量〉を題材にし、これほど測量にフォーカスした映画はこれまでありません。これ以降も考えられません。日の当たる「カッコいい!」という仕事というよりか、縁の下の力持ちのような、しかし大切な〈測量〉の仕事です。これを〈3K〉とか言ってケナすのではなく、茶かすのでもなく、崇高な職業精神を描いて見せるものになっています。人々に感動を売るのが映画人ですから、彼らにはかないません。名優と名監督の撮影が完了し、素晴らしい映画ができあがるのが約束されています。後は、いかにたくさんの人々に見ていただくかです。映画館を出てきた測量技術者は皆、柴崎芳太郎になっていると思います(笑)。公開まであと7ヶ月。測量・地図に携わる人たちは全力で応援しましょう。

2009年1月号

- 2009年新年号を、会員の皆様は無事お届けできるのを嬉しく思います。サプライズ新年号ではなかったでしょうか? 表紙は、香川照之さんの大写真です。藤原正彦先生・美子先生のインタビューもあります。浅野忠信さん取材記事も間に合って載せる事ができました。藤原美子先生は、この映画を成功させるために、超多忙な正彦先生を捉まえて、インタビューの時間を捻出していただきました。本当にありがとうございます。また、香川さん、浅野さん登場は東映宣伝部さんご協力の賜物です。そして他の仕事に優先してこれらの記事に取り組んでいただいたライター、デザイナー、カメラマン等々の方々にお礼申し上げます。みんなこの映画を成功させたいという気持ちの表れでした。

2009年2月号

- 本号の表紙は、昨年NHK大河ドラマの「篤姫」で大河好きの中老年視聴者のこころをがっちりつかんだ、宮崎あおいさん。映画「劔岳 点の記」には、予想に反してたくさんのシーンに登場とのことです。長い出張に出かけた測量官・柴崎芳太郎を待つ、新妻・葉津よ。明治女性の感情を抑えた愛情表現に、愛情砂漠気味の中老年オヤジの涙線が、全開になることでしょう。いやあ、早くも今年の年末の映画祭が楽しみになりました。

2009年3月号

- 雪の山形県に行ってきました。10年くらい前に藤沢周平さんの小説の舞台を巡る旅行をして以来の個人的山形行。今度は柴崎芳太郎さんの故郷を一度見たくて、思い立って日帰りで行ってきました。福島県境のトンネルをぬけると雪景色。吹雪いたと思ったら薄陽がさして、また雪が降り積む。冬晴れの関東とはまるで別世界だ。大石田町の町立民俗資料館ではちょうど「写真でみる大石田のあゆみ展」が展示中でした。柴崎さんが目にしたであろう明治と大正時代の写真もありました。大石田そばは美味しかった。資料館の職員の方も突然の来訪者に親切だったし、後で役場の企画課から、映画のことをもっと詳しく知りたいとの電話もあった。やはり人情があると思いました。

2009年4月号

- 映画「劔岳 点の記」の木村監督は、クランク・アップのインタビューで「こんな大変な映画に参加した役者も、スタッフもバカです」と言っておられた。本誌では、2007年の春からこの映画を追いかけて、映画「劔岳 点の記」関連記事が載らない月はないといわれるくらいしつこく取り上げてきた。映画が完成して、公開に向けて東映のPRがいよいよ熱を帯びてきている。本誌編集も測量・地図の関連業界や土木関係全国団体への広報に及ばずながらご協力させていただいている。東映の角田プロデューサーは地道に汗をかいて各団体に挨拶回りをしておられる。その姿を見て、映画人の作品への愛着（とりわけてこの映画への）と、一人でも多くの方々に鑑賞していただきたいという真摯な気持ちに触れることができた。これもこの映画に関わった大きな収穫かも知れないと思っている。

2009年5月号

- 本号では、映画「劔岳 点の記」の試写会に参加していただいた方々からの感想を掲載いたしました。皆さんこの映画の完成に大きな喜びを感じておられるということは、はっきり言えることでしょう。木村監督はこの映画を全国で上映して回っておられます。各地の試写会で満足する観客の姿をみても、東映の関係者としては興行的に成り立つかどうか不安は隠せないようです。映画館は、客の入りがよくないとすぐに打ち切るといいます。わが測量・地図の関係者は、「後で見よう」ではなく、ぜひ家族・友人誘って封切り直後10日間間に映画館に足を運び、この映画が「超満員」と各種媒体の話題になるようにしたいものです。